

Vol. **47**

2015.1
January



ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

- 2 新年のご挨拶
- 3 第3回 京都府介護支援専門員研究大会
- 4 特集 ブロック委員10年以上の方からの寄稿
- 5 公益社団法人 京都府介護支援専門員会 府民公開講座
- 5 中丹・丹後ブロック合同研修会
- 6 京都市北西ブロック活動報告
- 7 京都市南東ブロック活動報告
- 7 事務局からのお知らせ



新年のご挨拶

会長 井上 基

京都府介護支援専門員会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年を振り返って見ますと、さまざまな災害がありました。広島市での豪雨による土砂災害、御嶽山の噴火など多くの犠牲者が出ました。京都でも8月の豪雨により福知山市等では多くの被害が発生しました。被害をうけられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

本年4月の介護報酬改定に向けて、社会保障審議会介護給付費分科会での議論もいよいよ大詰めを迎えています。このケアマネ・ポートを皆さんがご覧になるころには、かなり具体的な内容が明らかになってきているはずです。平成29年4月に延期された消費税率の改定（8%→10%）と併せて、私たち介護支援専門員は、介護保険制度だけではなく、大きく社会保障制度全体の方向性を注視していく必要があります。また、介護支援専門員の地位向上・制度の持続可能性の追求・社会的弱者としての高齢者福祉など、いくつものベクトルの異なる目的を、同時に追求するという超難題の解決に向けたプロセスに関心を持ち、しっかりと意見具申していく必要もあります。

「走りながら考える…」と言われた介護保険制度ですが、平成12年の制度開始当初より、介護支援専門員については、一貫して「介護保険制度の要^{かなめ}」と位置付けられてきました。介護保険制度がこれだけ国民に周知され、身近なものになった背景には、我々介護支援専門員の存在が非常に大きかったと自負しています。しかしながら、一方では、国や都道府県、市町村レベルの会議であっても、現場の介護支援専門員に向けられる批判が絶えないのも事実です。

数ある専門職の中で、なぜ、介護支援専門員だけがこれほどの批判に晒されるのかを思うとき、新しい職種であるがゆえの未成熟さや力量不足だけが、単純に指摘されているのではなく、介護支援専門員が取り組む職務内容の困難さを周囲が理解した上で、それでも、その役割を担い、果たしてほしいという社会からの強い期待や願いの表れではないか…と考えます。

様々な場面で、介護支援専門員に対して不十分であると指摘されている医療と介護の連携、フォーマルだけでなくインフォーマルなサービスの活用、真の自立（自律）に向けた支援など、そのどれもが社会全体の課題として既に重要性が叫ばれて久しく、誰もが必要性を認めながらも、その役割を果たす職種を見いだせないままに、今日に至っているものであり、ようやく、その重責を担うべく介護支援専門員が登場したとも言えるのではないのでしょうか。

そう考えると、介護支援専門員には、医療と介護の連携のキーパーソンとして、インフォーマルなサービスをも組み入れたケアプランを作成し、利用者にとっての真の自立（自律）を支援する役割が求められているのであり、これはまさに、介護保険制度の要から、今度は「地域包括ケア実現の要^{かなめ}」へと、その役割への期待が更に大きくなっていると言えるのでしょうか。

介護支援専門員は、今、その重圧に耐え切れずに、現状とは全く異なる職種へと変遷していくのか？それとも、自らの専門性を高めることによって専門職としての地位を確立していくのかの正念場を迎えているのではないのでしょうか。

今年1年、当会は、会員の皆様一人一人が京都府民から信頼され愛される介護支援専門員として活動できるよう支援をしていきます。本年も、会員の皆様の当会へのご協力・ご支援・ご鞭撻をお願いするとともに、皆様方にとってより良い年になることを祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

第3回 京都府介護支援専門員研究大会 報告

平成26年11月15日（土）第3回京都府介護支援専門員研究大会（主催：公益社団法人京都府介護支援専門員会）がメルパルク京都で開催され、京都府内のケアマネジャー101名が参加しました。

～ケアマネジャーにとって連携とは～を研究大会のテーマとし、まず開会の挨拶として当会井上基会長から今、ケアマネジャーに求められているものや今後の情勢等についての話がありました。

続いて厚生労働省老健局総務課の遠藤征也総括補佐から基調講演を頂きました。『介護保険制度改正における介護支援専門員の果たす役割と責務～次期介護報酬改定の中で見えてきたもの～』と題し、今回の報酬改定における基本視点として①医療と介護の連携も含めた在宅重度者や認知症高齢者への更なる強化②介護人材確保対策③サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築という3つの柱について、社会保障審議会介護給付費分科会の主な論点等を用いて詳細に説明がありました。その中では「ケアマネジャーという独特の立ち位置の専門職がいかに仲間（会員）を増やし、代表する方が国や保険者へ提案できるか。今に満足せずに変えていけるか！もっと仲間（会員）を増やして提案していきましょう!!」との助言を頂きました。

また地域包括ケアシステムの構成要素の具体的な姿として本人や家族の選択と心構えについて触れ、ケアマネジャーとしてサービスを繋げる事も重要ですが、長年の信頼関係をもつ主治医や以前から関与をしているケアマネジャー等の専門職が助言をする事で「本人や家族の自己決定」に対する支援となる。自己決定には時間がかかるが大変重要であり、そういう役割をケアマネジャーが担っているとの話を頂きました。



○最後に生涯で最も困難な時期を支え、今一度「生きる力」を引き出し、そして残された人生を満足して過せるように支援するのが介護支援専門員である。

○利用者の後ろには家族がいて、その後ろには地域がある。

○誰もが安心して暮らせる社会は、地域が豊かである事が必須の条件である。

○その意味においても、介護支援専門員は地域をも豊かにする役割の一旦を担っているといえる。

○人を支援し地域を豊かにする。

○そのような魅力と可能性に満ちた仕事に誇りを持って頂きたい。

と叱咤激励の言葉を頂きました。

午後からの研究大会では9名の発表者の方々に「ケアマネジャーにとって連携とは？」をテーマに9題の研究発表を頂きました。直接的な支援や包括主任ケアマネジャーとして間接的にケアマネジャーを支援するケース。徘徊模擬訓練での地域との連携等についても発表を頂きました。コメンテーターの花園大学社会福祉学部社会福祉学科福富昌城教授からは多職種チーム3つのモデルを使い、それぞれが個別に行動しチームとしての協働連携が行なわれていないマルチディシプリナリーモデルに陥る事無く、9題ともに関係者でコミュニケーションを図り情報を共有するインターディシプリナリーモデルや連携に加えて役割解放と呼ばれる意図的な専門職間の役割の横断的共有概念であるトランスディシプリナリーモデルとなっており、今回のキーワードであるコミュニケーション（連携）が図れそれぞれ共有出来ていたとの総評を頂きました。また今回参加した全てのケアマネジャーが実践の現場で活かしてもらう事を願いますと研究発表を閉めて頂きました。

最後に松本善則副会長から閉会の挨拶にて研究大会が終了しました。参加頂いたケアマネジャーの皆様お疲れ様でした。次年度の研究大会はぜひ発表する側としてご参加下さい。（学術部会委員 瀧川広治）

※尚、今大会のまとめのパワーポイント資料を当会ホームページ（<http://www.kyotocm.jp/>）に掲載しております。ご参照ください。



特集 ブロック委員10年以上の方からの寄稿

会員番号0898

中部ブロック 藤岡 嗣朗

ブロック委員を10年続けているので原稿を書けと言われてそういえば何回か『また委員をお願いします』との連絡を受けたような記憶がある。他の委員さんには申し訳ない話であるが、仕事をしない委員ゆえ長続きしただけで中部ブロックは私以外優秀で仕事出来る委員で固めてあり、名前だけの私も長く『よせてもらえた』だけである。

介護保険法施行時に地区医師会の介護保険担当理事をやられており、地区医師会員も一人位介護支援専門員の資格を取っておいたほうが良いと理事会で話になり皆の視線が私に向き『エライことに』なってしまった。試験に落ちまくった輝かしい過去を持つ私にまた未知の試験に挑戦せよとのお達しが下り、一人でお勉強などできそうも無く仲間を集めて今は無き日吉町社会福祉協議会の古びた二階で10人ほどで勉強会を開き、一人を除き合格。次年度は不合格の一人の為に勉強会を開くがまた10

人ほどの参加者があり一人か二人不合格者がでて結局5年ほど勉強会を続けたと思う。

そんなことでお声が掛り委員とやらを仰せ付かったが、見事に仕事をしない委員だったと自覚している。中部地区には優秀な委員さんが毎回集まって下さり、皆さんが熱心に議論なさっている所にたまに顔を出し『チャチャ』を入れるのが私の役目とお付き合いして来た。私以外の委員さんは介護支援専門員として日々活躍されている方ばかりで、専門職としての見識と意見をお持ちであり頼もしい限りである。

最後に注文。多くの職種が集まりお一人の方について議論する場合など、どちらかと言うと介護支援専門員は後ろに隠れてしまわれることが多いと感じる。『お前の声が大きいくだけ』と言われてそうだが、そんなことで怯んではいけない。介護支援専門員が家庭内の情報を一番持っている場合が多くご家族と直接顔を合わせる機会も多いはずである。議論を引っ張る位の心意気で臨んで頂きたい。

医療と介護の連携

相楽ブロック 池田 文武

介護保険制度導入時に当会元会長で前京都府医師会会長の故油谷先生は、私達医師会員に今後の医療において、在宅医療への取り組みと介護保険制度への理解・参加の重要性を熱心に説かれました。当時多くの先生方が制度の理解も含めて介護支援専門員の試験を受けました。しかし医師と介護支援専門員の両立は困難で、私を含めて殆どの先生方は介護支援専門員としての実務が出来ないペーパードライバーであるのが現状です。医療はある意味では簡潔であり、現時点での医療サービスとしての診断法・治療法は確立しています。しかし介護支援専門員の介護プラン作成には、要介護度を含めて人的・経済的・環境的など多くの要素が錯綜し、何がベストか不鮮明で、

ベターといえるものにならざるを得ません。本当に良い仕事をしようと思うと、介護支援専門員は大変な業務だと思います。在宅医療には『医療と介護の連携』は不可欠で、当地域でお題目のように『医療と介護の連携』を唱えて私なりに活動・啓発してきたつもりですが、まだまだ不十分な状況にあります。医療側にも問題はありますが、介護支援専門員の資質に格差があるのも事実です。

『医療と介護の連携』において最も重要な役割を担うのは介護支援専門員です。

現在考えられている在宅療養における医療と介護サービスの多職種による連携や融合という図式が、一つのパイを分け合うというより、取り合うことにならないかと危惧します。今こそ『医療と介護の連携』のために介護支援専門員の果たす役割は大きく、SkillとQualityの全体的なレベルアップが望まれます。

公益社団法人 京都府介護支援専門員会 府民公開講座

去る11月8日（土）ハートピア京都大会議室にて、恒例の公益社団法人京都府介護支援専門員会主催の府民公開講座を開催しました。

今回は京都大学大学院人間・環境学研究科研究員の佐藤泰子先生をお招きし、テーマ『人はなぜ苦しむのか？～人の苦しみを聴く力を人気アニメから学ぶ～』についてご講演頂きました。

なお、当日は講演前に今年の1月から2月に募集をしておりましたオリジナルキャラクターの受賞者の表彰式を行いました。多数の応募の中から最優秀賞の「介都くん」を制作していただきました小柴雅樹様をはじめ会長賞2名、審査員特別賞1名の方々に賞状と賞金を授与させていただきました。



その後に佐藤先生の講演となり、始まると同時に佐藤先生のとても軽快なトークにて会場内が笑いであふれていました。巨人の星や天才バカボンなどを取り入れてご講演いただきました。人は物事を考えるときに「脳」「頭」「経験」等から言語（言葉）を用いて概念をもって考えている。苦しみとは概念をもって物事を考える際に思い通りに行かなかった時や物事に対して“NO”と考えた時に「苦しみ」が生まれる。今回の府民公開講座は、介護支援専門員として業務の中で利用者様や家族様に苦しみが生じたときはどのように向き合い、寄り添うと良いのか？を深く考え直す機会になったと思います。



最後に、お忙しい中ご講演をいただきました佐藤先生、お越しいただきましたたくさんの府民の皆様ありがとうございました。

（公益事業委員会委員長 中平 克樹）

中丹・丹後ブロック合同研修会

10月25日、京都府中丹勤労者福祉会館にて中丹・丹後両ブロック合同の研修会を福知山市介護支援研究会・綾部市介護支援専門員協議会との共催で実施しました。

今回の研修は、烏野 猛先生（びわこ学院大学教授、株式会社福祉リスクマネジメント研究所所長）を講師に『災害弱者と大規模災害をめぐるリスクマネジメント研修』のテーマで開催し、北部地域の介護支援専門員や福祉関係者等50名余の参加者を得ることができました。

福知山市は、不幸にも2年続けて水害に見舞われ大きな被害を受けました。利用者宅はもちろん福祉施設も水没し泥の流入による被害や電気設備等の被害で事業を休止し再開のために多大な努力をされた施設もあります。今年も全国の各地で自然災害による被害の発生が報道される中、リスクに備えるための方策を考える良い機会になったと思います。

烏野先生は、多くの事業所で作成されている災害対応

マニュアルが、いざという時にはうまく機能できていない現状を説明され、マニュアルを作成した職員の意図が施設全体には徹底されていないこと、火災を想定した対応が主流でそれ以外にも台風や大雪等の種別ごとの対応策が作成されていることで総合的な対応力に欠けてしまうこと等の問題点を指摘されました。

災害の発生が「予見可能」（台風であれば進路予測や大雨であれば降雨量予測）な場合には、誰が必要な情報を収集するのか、どの情報で必要な判断をするのかを決めなければならないこと、避難する場合でも何の情報を持って避難するのか、どこへどのような方法で、どのような経路で、実行性と確実性は、という判断の基準が要求されること、避難しないと判断した場合にもその根拠とした情報は何か、誰が判断するのか、安全な場所の確保はできるのか、備蓄品は十分あるのか、備蓄品はいつ



までもつのか等の問題が検討されていなければならないという説明がされました。

災害ごとのマニュアルではな

く【電気】【水道（飲料水・生活用水）】【ガス】【通信】【交通機関】等のインフラごとに想定されるリスクと



対策を考える方が、問題が理解しやすく対応策もきめ細かく検討できることが示されました。

個人レベルでも情報収集を携帯電話（スマートフォン）の緊急情報で得るテレビ映像を見ることができるのがベストであること、自動車でテレビを見ることができれば停電時にも情報が得られること、車載電源から携帯電話の充電ができること、そのためにはガソリンがある程度入っているように常に行っていること等普段からの継続的な備えが災害時に役に立つことについての助言もいただき3時間の研修時間が、とても短く感じる内容の研修となりました。

（中丹ブロック委員長 北山 重良）

京都市北西ブロック活動報告

今年度のブロック体制の変更により、京都市北ブロックは、「北東」と「北西」の2ブロックに分かれました。「北東」は、左京区、北区、「北西」は右京区、上京区、中京区から構成されます。23年に京北町が併合され面積・人口共に大きくなった右京区、西陣等の伝統産業の名残もある上京区、まち中で昔からの町衆とマンション居住者が同居する中京区と、其々特徴があります。「北西」は7名のブロック委員から構成されていますが、ブロック自体の会員数は287名（10月20日現在）にのぼります。

「北東」と相談し、今年度は合同で研修会を企画。10月には、『笑いが人生を豊かにする』というテーマで、『日本笑い学会』の講師に講演を依頼し、「ストレスをため

込まないために笑いが必要」「笑いが身体の細胞を賦活する」「リンパと気の流れを良くするための運動」等についてお話しいただき、その後、ワールドカフェ形式でストレス発散についての意見交換を行いました。日頃、ストレスを感じることの多い仕事ですが、意識的に「笑う」ことは、身体に良いことはもちろんのこと、心身が健康であることが良好なケアマネジメントにも繋がることを改めて再認識することができました。3月は報酬改定に関係した内容で、研修会を開催する予定で企画中です。

（京都市北西ブロック委員長 北川 裕之）

京都市南東ブロック活動報告

京都市南東ブロックは、去年までは、京都市南ブロックとして、下京区、南区、西京区、東山区、山科区、伏見区の6行政区でしたが、会員数が多いとのことで、今年度より、東と西に分かれることになりました。南東ブロックは、下京区、東山区、山科区の3行政区を範囲としています。

去年から引き継いだブロック委員は2名で、そのうちの一人である私も2年目ではありますが、1年目にほとんど活動できていなかった為、実質の経験者は1名、そのほかの7名は新任ではありますが、ブロック担当理事の支援も得ながら、ブロックも分割されたのを機に、気分を一新し、各区3名ずつの委員体制で、手探り状態の中、頑張っております。

今年も去年に引き続き、年1回の研修を企画し、11月

30日に、『事例から学ぶケアマネジャーのリスクマネジメント』—利用者と事業所のトラブルにはどのように対応すべきなのか—と題して、保険会社のリスクマネジメント企画担当課長をお招きして、事例を通して対処の引き出しを増やす、想定して備え（予防対応）をする等、学びました。

今後について、運営委員会の中では、各区ごとでの意見交換等の懇談交流会等の案も挙がっております。是非、皆様のご意見ご要望等、お聞かせ頂けたらと考えておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

（京都市南東ブロック委員長 今松 一郎）

事務局からのお知らせ

■ メールマガジンについて

当会ではホームページからの情報発信に加えて、日々の業務に役立つ情報・研修の開催情報等をお届けするメールマガジンを配信しております。おかげさまで購読者数は780件となりました。（平成26年11月現在）

平成26年9月より、介護保険法改正の解説・次期介護報酬改定の現状予測をタイムリーに臨時増刊号で情報発信しております。4月の介護報酬改定に向けてぜひご購読ください。

お申し込みは当会ホームページの「メールマガジン申込フォーム」または右の図のように空メールをお送りいただくだけで完了です。スマートフォンや携帯電話からもご登録いただけます。みなさまのご登録をお待ちしております。

※すでに登録いただいている方も、登録メールアドレスのご確認と受信拒否設定の解除をお願いいたします。

宛先 mail@kyotocm.jp

件名 メールマガジン希望

本文

①会員番号

②氏名

③生年月日

メールをお送りいただくだけで手続き完了です。

■平成27年度会費納入のご案内

○会費納入のご案内【口座振替】が同封されていた方へ

ご指定の金融機関より、平成27年3月2日（月）に引落しさせていただきます。同封の「会費納入のご案内」【口座振替】で金額をご確認のうえ、振替日の前日までにご指定の口座にご準備いただきますようお願いいたします。

○会費納入のご案内【振込】が同封されていた方へ

平成26年11月25日現在、「預金口座振替依頼書」のお届けがありません。口座振替ができかねますので「会費納入のご案内」【振込】をご確認のうえ、平成27年3月16日（月）までにお振込みいただきますようお願いいたします。

また、同封の「預金口座振替依頼書」を同日までに必ずご返送ください。平成27年度会費は振替できません。平成28年度からの利用となりますのでご注意ください。

■封入物のお知らせ

- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）の研修制度の見直しについて
- ・会費納入のご案内
- ・企画研修案内（平成27年1月～3月開催分）
- ・公益社団法人京都府介護支援専門員会 要介護等認定訪問調査員募集のお知らせ
- ・当会オリジナルキャラクター『介^{かい}都くん』救急ばんそうこう
- ・年会費割引キャンペーンちらし

編集後記

あけましておめでとうございます。広報委員一同より皆様に新年のご挨拶を申し上げます。介護報酬改定を直前に控え、管理者をはじめ介護支援専門員の皆様には忙しい年度を迎え、準備に忙殺される覚悟をされているのではないのでしょうか？本会メルマガなどのタイムリーな情報はじめ、しっかりと準備を整え、新たな一年を迎えていただきますことをお祈り申し上げます。

今年はひつじ年です。ひつじは家族や愛、あたたかな人柄の象徴であると言われています。私たちケアマネジャーが担当する利用者も家族愛や地域愛に包まれた一年になることを願います。

今後も刻々と変化する時勢や介護保険制度の改正を見据えた今まさに、私たち介護支援専門員にとって、使命や意義を改めて誓う春としたいものです。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（理事 柴田 崇晴）

京都ケアマネ・ポート47号

2015年1月1日発行

発行人：井上 基

編集委員長：西村 篤

広報部会編集委員：柴田 崇晴 高木 はるみ 佐藤 弓子 中嶋 優 小林 啓治 松本 善則

発行元 公益社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/